

# 事業実施報告書

## 法人名 特定非営利活動法人 NPO サイエンスアカデミア

事業名	秩父サイエンスアカデミー及び学校教育支援活動
助成枠の種類	埼玉県 NPO 活動促進助成事業(スタートアップ事業)
1. 事業の目的	子どもたちに科学や身近な自然に興味関心もたせ、子どもの科学する心を醸成させるために学校教育支援を行うとともに、身近な環境や自然に関する研究発表会等を通して、広く県民・市民に地域の自然に関心を持っていただく機会をつくる。
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	秩父サイエンスアカデミーは秩父地域を対象とした取り組みであり、交通不便地が多く、小学生が参加しにくい環境がある。また、地域でどのような研究が行われているかその情報を収集する手段が必要である。
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>次の3事業を実施した。*新型コロナ感染により、事業は後半に集中した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・秩父サイエンスアカデミー(実験の部):「オゾン層の破壊」を、紫外線感知絵具や植物の色素を用いた紫外線をカットする実験から考えさせた。<ul style="list-style-type: none"><li>*共催: 日本薬科大学・NPO 秩父百年の森</li><li>*後援: 秩父市・長瀬町・皆野町・小鹿野町・横瀬町教育委員会</li><li>*日時: 令和3年12月11日 9:30~12:00</li><li>*会場: 県立秩父高等学校実験室</li><li>*参加者: 小学生4年生以上15人及びその保護者</li></ul></li><li>・秩父サイエンスアカデミー(研究発表の部): 自然をテーマに研究している中学生、高校生、大学教員、一般の研究者の発表会を実施し、自然界の課題を科学的にとらえる機会とした。<ul style="list-style-type: none"><li>*共催: 日本薬科大学・NPO 秩父百年の森</li><li>*後援: 秩父市・埼玉県秩父農林振興センター</li><li>*日時: 令和3年12月25日 13:00~16:00</li><li>*会場: 秩父看護専門学校講堂</li><li>*発表者: 秩父市立高篠中学校科学部、県立秩父農工科学高校食品化学科、県立熊谷西高校科学部2報、日本薬科大学教員、埼玉県中央部森林組合職員</li><li>*参加者: 発表者を含め60名</li></ul></li></ul>

・学校教育支援の一つとして、薬物乱用防止教室を上尾市内の中学校 4 校で実施した。

- \*令和 3 年 11 月 25 日 上尾市立瓦葺中学校
- \*令和 3 年 11 月 26 日 上尾市立南中学校
- \*令和 3 年 12 月 3 日 上尾市立原市中学校
- \*令和 3 年 12 月 17 日 上尾市立大谷中学校

時期	内容
7 月	秩父サイエンスアカデミー チラシの配布
8 月	秩父サイエンスアカデミー(実験の部)を延期
9 月	自然観察を中止
10 月	秩父サイエンスアカデミー チラシの配布
11 月	上尾市立瓦葺中・南中学校薬物防止の講演
12 月	上尾市立原市中・大谷中学校薬物防止の講演 秩父サイエンスアカデミー(実験の部) 秩父サイエンスアカデミー(研究発表の部)
1 月	活動報告書発行
2 月	

#### ○広報実績について

- ・秩父サイエンスアカデミー(実験の部)：秩父郡市内 23 校にチラシを配布及び各教育委員会に働きかけをした。  
実施内容は埼玉新聞に掲載された。
- ・秩父サイエンスアカデミー(研究発表の部)：秩父市広報誌に掲載するとともに、関係公的機関にチラシを配布した。
- ・薬物乱用防止教室については、秩父地域及び上尾地域に対し養護教員会をとおしてお知らせした。

#### ○事後の広報

令和 4 年 1 月 7 日「ちちぶ FM」の生番組(1 時間)に出演し、NPO の活動を紹介した。

#### 4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容

- ・秩父サイエンスアカデミー(実験の部)  
身近な実験をとおして小学生に地球環境問題への関心を深めさせることができた。
- ・秩父サイエンスアカデミー(研究発表の部)  
中学生 1 報、高校生 3 報、大学教員 1 報、一般社会人 1 報の発表があり、参加した多くの方に対し、秩父の森や川等に対する関心を深める事が出来た。発表会では秩父農林振興センター、秩父市、埼玉県教育委員会指導課及び秩父北部教育事務所からの出席があった。
- ・薬物乱用防止教室  
主催する学校との協力により、また、会員が薬学教育等に従事しているこ

	とから教育的視点に立って薬物乱用防止の話をする事ができた。
5. 費用面での工夫	スタートアップ事業のおかげで、会員の負担に頼ることなく進める事が出来た。また、NPU サイエンスアカデミアが日本薬科大学と連携しているために、必要な実験器具等を借用することにより経費削減を試みる事が出来た。
6. 地域社会への還元について	理科実験や発表会をとおして学校教育の支援と子どもの科学する心の醸成を図ることができた。取り組みも三年目となり地域に定着し理解を得られるようになった。
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	秩父地域の教育委員会、小中学校との一層の理解を得て、また、NPO 秩父百年の森の協力も得ながら、森の科学、地球環境問題に一層の理解が深まるような取り組みをしていく予定である。